

平成30年度 文部科学省委託事業
「障害者の多様な学習活動を総合的に
支援するための実践研究」報告書
－「学びの場」づくり編－

平成31年3月
一般社団法人 エル・チャレンジ
L's College おおさか

はじめに

I. 調査の目的及び調査対象

II. 調査方法

III. アンケート調査結果

i - i. 特別支援学校高等部 3 年生の保護者アンケート

- i. 調査対象者の障がい状況
- ii. 卒業後の進路について
- iii. 進路決定のポイント
- iv. 支援学校卒業後の「学びの場」の認知度
- v. 進路先としての「学びの場」に期待すること
- vi. 社会人として必要だと思う力
- vii. まとめ

IV. アンケート調査から見える保護者のニーズ

ii - i. 在籍者 保護者アンケート結果

- i. L' s College おおさかを知った理由
- ii. L' s College おおさかへの入学の決め手
- iii. L' s College おおさかへの満足度
- iv. L' s College おおさかを楽しめているか
- v. L' s College おおさかに期待すること
- vi. L' s College おおさかで期待する行事
- vii. 社会に出るにあたって成長を期待する力

ii - ii. 修了者 保護者アンケート調査結果

- i. L' s College おおさかを知った理由
- ii. L' s College おおさかへの入学の決め手
- iii. L' s College おおさかに通っていた様子
- iv. L' s College おおさかへの満足度
- v. L' s College おおさかの不足していた点
- vi. L' s College おおさかの良かった点
- vii. L' s College おおさかの良かった行事
- VIII. L' s College おおさかの不足していた行事
- ix. L' s College おおさかの 2 年間で成長を感じられたか
- X. L' s College おおさかで成長したと思うところは

ii-iii. 在籍者 アンケート調査結果

- i. L' s College おおさかの楽しさ
- ii. L' s College おおさかを休みたくなる日
- iii. L' s College おおさかで仲の良い友人
- iv. L' s College おおさかの授業の分かりやすさ
- v. L' s College おおさかの授業の役立ち度
- vi. L' s College おおさかの職員の在籍者への理解
- vii. L' s College おおさかで困ったことや悩んだことがある場合
- viii. L' s College おおさかで社会に必要なルールやマナーを教えてくれるか
- ix. L' s College おおさかで好きな教科
- X. L' s College おおさかで苦手な教科
- xi. L' s College おおさかにきて初めての挑戦
- xii. L' s College おおさかで楽しみな行事

V-I. L' s College おおさかの取り組み

- i. L' s College おおさかの位置づけ
- ii. L' s College おおさかの「学び」
- iii. L' s College おおさかの目的
- iv. L' s College おおさかのプログラム

V-II. L' s College おおさかの週間プログラム

- i. 週間プログラム
- ii. 「学び」の体制について

V-III. L' s College おおさかの年間行事

- i. 1年めの行事
- ii. 2年めの行事

V-IV. L' s College おおさかの体験的な「学び」

- i. 教科体験的な「学び」
- ii. 校外学習

V-V. 大学交流プログラム

大阪府立大学羽曳野キャンパスでの交流

V-VI. L' s College おおさかの学習評価

V-VII. L' s College おおさか修了者の進路状況について

V-VIII. 職員体制について

- i. 職員配置体制について
- ii. 各職員の役割について
- iii. 教員等に求められる経験やスキル
- iv. 職員間の連携について
- V. 人事評価について

V-IX. L' s College おおさかにおける「学び」を継続させるために必要であると考えられる条件設定について

- i. 「学び」の評価等と公開の実施
- ii. 在籍者並びに保護者の意見の公開
- iii. 実施プログラムについて
- iii-i. 週間プログラムについて
- iii-ii. 年間行事について
- iv. 緊急対応の公開
- v. 職員研修等の体制

V-X. L' s College のめざす4年間の「学び」

- i. L' s College (L' s College おおさか・L' s College Plus) 設立の背景
- ii. L' s College おおさかにおける2年間の目標
- iii. L' s College Plus における2年間の目標

V-XI. L' s College おおさかの今後の課題

- i. L' s College おおさかの現状
- ii. L' s College おおさかの課題

VI. まとめ

別添1 平成30年度 文部科学省委託事業「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」保護者アンケート

別添2 在籍者保護者アンケート調査

別添3 修了者保護者アンケート調査

別添4 在籍者アンケート調査

はじめに

2011 年の「文部科学省学校基本調査」では、特別支援学校の高等部、特に知的障がい支援学校における進学率は、全国平均で大学等の進学が 0.5%、専修学校が 0.1%になっています。

「平成 29 年度大阪の支援教育」では、知的障がい支援学校における進学率は 0%であり、厚生労働省管轄の障害者職業能力開発校が 3%となっています。また、知的障がい支援学校高等部生徒の卒業後の選択肢は、就職率が 26%、障がい者支援施設が 65%となっています。

我々、L' s College おおさかを運営する一般社団法人エル・チャレンジが組合員である大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合では、大阪府の取り組む「行政の福祉化」の一環として、府有施設等の清掃を通じた職業訓練を行い、これまでに 700 名以上の障がいのある人の就職等を支援してきました。700 名の多くは、卒業後、一度は就労したものの、様々な理由でうまくいかず、離職してしまった人たちです。

平成 26 年 2 月に批准した「障害者の権利に関する条約」において、

第二十四条 教育

- 1 締約国は教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を抱擁するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保する。(以下略)
- 5 締約国は、障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯教育を享受することができることを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障害者に提供されることを確保する。

また、教育基本法には、

第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現を図らねばならない。

第十二条 個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

と規定されています。

特別支援学校における職業教育は、経済的な自立を図る上で極めて重要ですが、特別支援学校卒業後に就職した者が、離職してしまうケースもあります。また、障害者権利条約などの規定から、卒業後の進路の幅を広げ、障がいの有無にかかわらず、生涯にわたって学び続けられる環境づくりが重要です。

こうしたことから、私たち L' s College おおさかも、卒業後すぐに就労するのではなく、就労前のコミュニケーションやモチベーション維持などの力を養う期間の重要性を痛感していました。そこで、そのような力を育む場として、障害者総合支援法に基づく自立訓練(生活訓練)を活用した「学びの場」として、L' s College おおさかを平成 27 年に設置することとしました。

「学びの場」とは、いわば「知的障がい者のための大学」です。現在は、自立訓練を活用した L' s College おおさかの 2 年間と、就労継続支援 B 型の 2 年間で活用した L' s College Plus での 4 年体制としています。

今回の事業を通じて、「学びの場」全般に関する保護者の考えや、L' s College おおさかに関する保護者や在籍者の考えをアンケートにより把握し、L' s College おおさかの取り組みをオープンリソース

化するとともに、アンケート結果を踏まえた検証を重ねることで、より多くの関係機関において、L' s College おおさかのような「学びの場」に係る取り組みを促進することのできる環境づくりの一助としたいと考えています。

本報告書が、より多くの知的障がいのある方々にとって、進路の選択肢が広がるきっかけになることを願います。

★ アンケート調査について

I. 調査の目的及び調査対象

本調査では、下記の者を対象としたアンケートを行うことにより、「学びの場」全般に関する保護者の考えや、L' s College おおさかに関する保護者や在籍者の考えをアンケートにより把握し、L' s College おおさかの取組みをオープンリソース化するとともに、アンケート結果を踏まえた検証を重ねることで、より多くの関係機関において、L' s College おおさかのような「学びの場」に係る取り組みを促進することのできる環境づくりの一助とする。

- ① 大阪府内の特別支援学校（知的障がい。職業学科のある高等支援学校を除く。）高等部3年生の保護者を対象としたアンケートにより、「学びの場」に関する保護者のニーズを明らかにします。
- ② L' s College おおさかの在籍者の保護者及び L' s College おおさかの修了者の保護者を対象としたアンケート調査により、「学びの場」を選択した保護者の意識を明らかにします。
- ③ L' s College おおさかの在籍者を対象としたアンケートにより、本人の意識を明らかにします。
- ④ L' s College おおさかの取り組みの詳細を明確にします。

II. 調査方法

調査方法は、多肢選択性によるアンケート調査で、質問項目は、別添1のとおりです。

III. アンケート調査結果

i-i. 特別支援学校高等部3年生の保護者アンケート

調査対象：大阪府立の知的障がい対象特別支援学校 21校

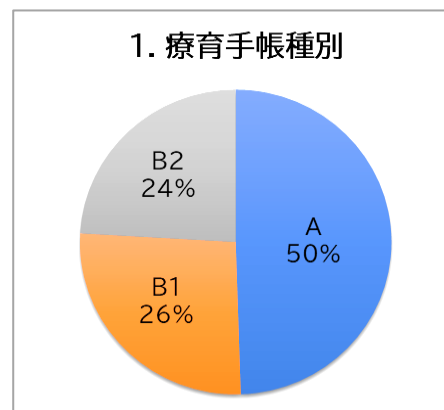
調査対象人数：904名

回収人数：386名

回答率：43%

障がい状況：療育手帳

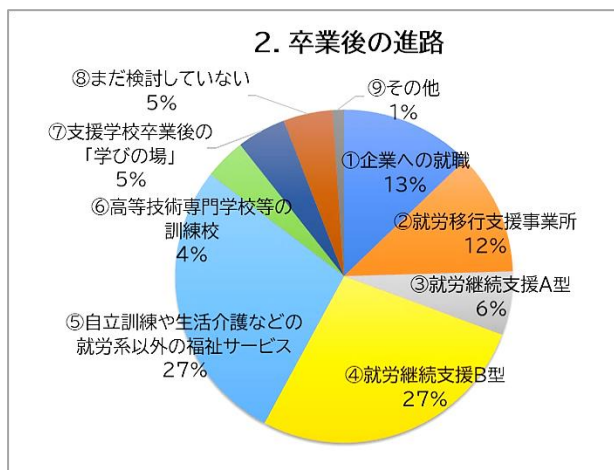
A	191人（49%）
B1	102人（26%）
B2	93人（24%）



i. 調査対象者の障がい状況

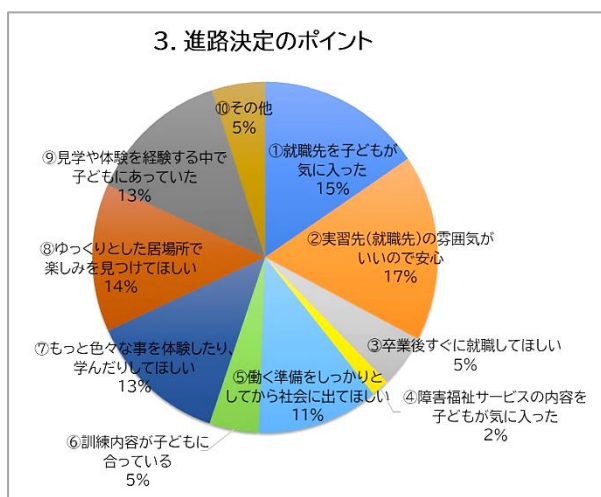
回答に占める障がいの状況については、療育手帳Aが50%（191名）、B1が26%（102名）、B2が24%（93名）と、Aの回答率が高くなりました。

ii. 卒業後の進路について



就職・就労移行支援事業所・就労継続支援A型を合わせると31%（169名）、就労継続支援B型は27%（149名）、高等技術専門学校が4%（22名）、就労系以外の自立訓練や生活介護等は、28%（152名）、「学びの場」は、5%（26名）でした。

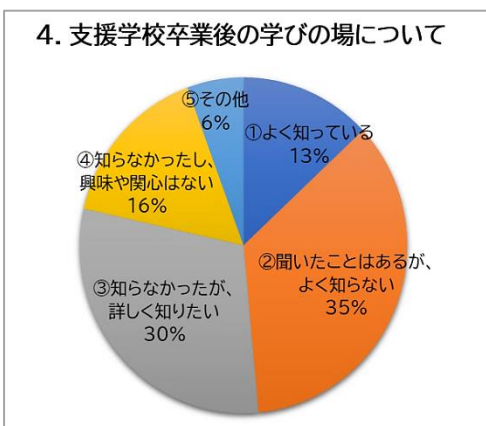
iii. 進路決定のポイント



進路決定のポイントとしては、就労を優先的なポイントとしてあげた保護者は37%（317名）となっていますが、「働く準備をしっかりとしてから社会に出て欲しい」11%、「もっと色々なことを体験したり学んだりして欲しい」13%、「ゆっくりとした居場所で楽しみを見つけて欲しい」14%、を合わせると38%（320名）となっています。

これらのことから、進路として、就労と同程度に、就労前の成長の場を望む保護者の声があると言えます。

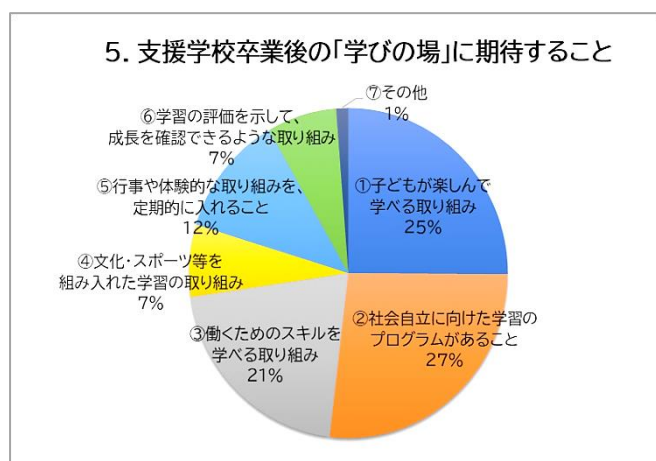
iv. 支援学校卒業後の「学びの場」の認知度



「学びの場」に関しては、知っているとの回答が13%（49名）であり、80%近くの方が、知らないという状況です。自由記述の回答では、「学習をするのにはハードルが高い」「大阪にそういった場所があるのを知らなかった」といったものがありました。

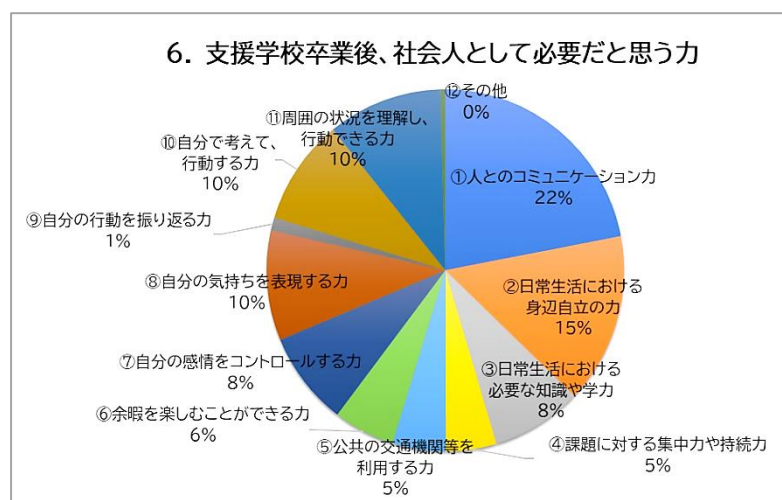
これらのことから、保護者にとっては、「学びの場」に関する情報が不足していると言えます。

v. 進路としての「学びの場」に期待すること



「学びの場」への期待に関しては、①子どもが楽しんで学べる取り組みが 25% (227 名)、②社会自立に向けた学習のプログラムがあることが 27% (242 名)、③働くためのスキルを学べる取り組みが 21% (188 名)、④文化・スポーツ等を組み入れた学習の取り組みが 7% (64 名)、⑤行事や体験的な取り組みを、定期的に入れることが 12% (108 名)、⑥学習の評価を示して、成長を確認できるような取り組みが 7% (64 名) となっています。

vi. 社会人として必要だと思う力



特別支援学校卒業後に、社会人として生活していくためには、保護者としてどのような力が必要と思うかの質問に対して、人とのコミュニケーション力が 22% (246 名) と最も多く、次いで身辺自立の力が 15% (170 名) になっています。

また、自分の気持ちを伝える力が 10% (110 名)、周囲の状況を理解して行動する力が同じく 10% (116 名) となっています。さらに、自分で考えて行動する力が 9% (106 名)、感情のコントロールが 8% (94 名)、余暇を楽しむ力が 6% (62 名)、公共交通機関を利用できる力が 5% (54 名)、集中力や持続力が 5% (51 名) となっています。

これらのことから、「学びの場」への期待は、多様であることがわかります。

これらのことから、「学びの場」への期待は、多様であることがわかります。

vii. まとめ

- ・保護者の意向としては、進路の選択肢として、就労と同程度に、就労前の成長の場を望む声があると言えます。
- ・保護者にとっては、「学びの場」に関する情報が不足していると言えます。
- ・「学びの場」への期待は、多様であることがわかります。

IV. アンケート調査から見える保護者のニーズ

i-i. 在籍者 保護者アンケート調査結果

平成30年度に在籍しているL's College おおさかの在籍者の保護者に対し、L's College おおさかに関するアンケート調査を行いました。

なお、調査対象者については以下の通りです。

対 象 者：L's College おおさかの在籍者の保護者

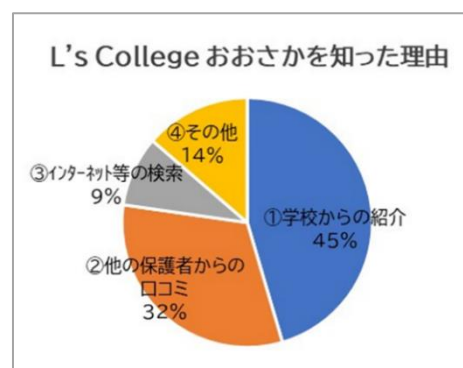
人 数：42名

回 答 率：100%

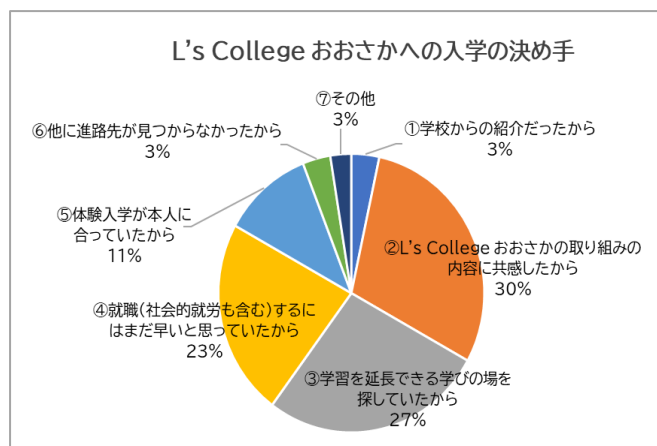
質問項目は、別添2のとおりです。

i. L's College おおさかを知った理由

保護者がどのようにしてL's College おおさかを知ったかということについて、半数近くが「学校からの紹介」と回答、32%が「口コミ」との回答でした。「インターネットでの検索」も10%割程度ありました。

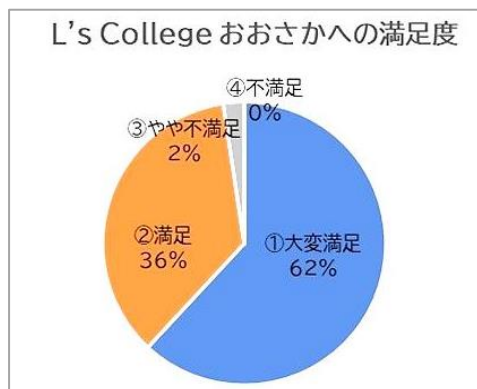


ii. L's College おおさかへの入学の決め手



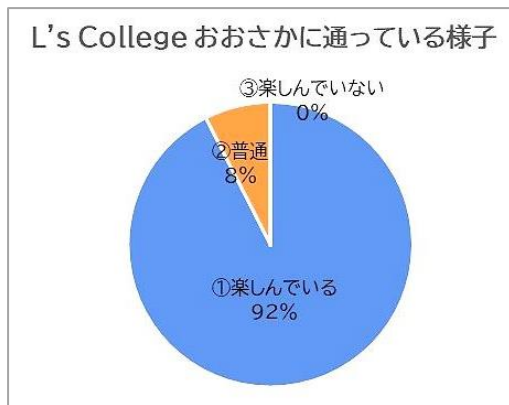
L's College おおさかへの入学の決め手は、「L's College おおさかの取り組みに共感した」が30%、次いで、「学びの場を探していた」との回答が27%でした。「就職にはまだ早いと思っていたから」が23%でした。少なくとも、60%に近い保護者が、卒業後の「学び」の必要性を感じていたということです。

iii. L's College おおさかへの満足度



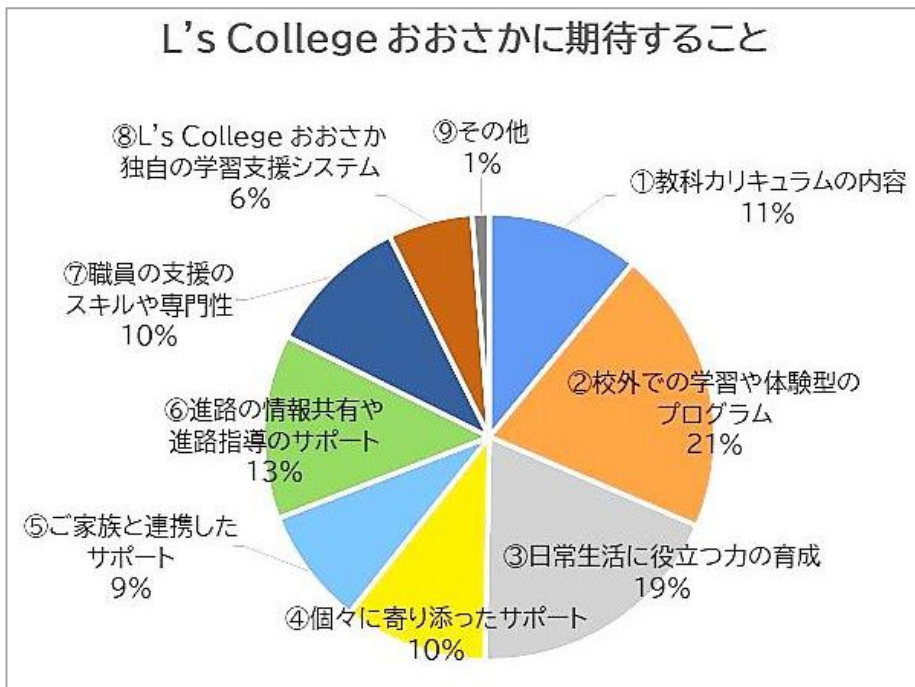
L's College おおさかへの満足度について、98%の保護者が満足と回答していますが、不満足と回答した保護者もいることを、しっかりと受け止める必要があると考えます。

iv. L' s College おおさかを楽しめているか



ほとんどが楽しめているという回答になっています。L' s College おおさかが考える「学び」とは、まず、楽しむことであり、これが大切だと思います。

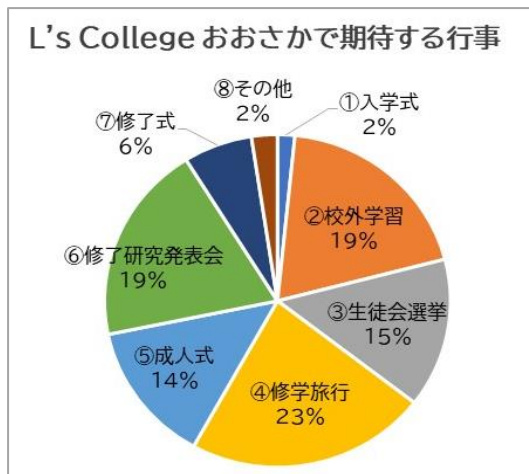
v. L' s College おおさかに期待すること



L' s College おおさかに期待することは、多岐にわたっています。最も多かったのが「体験的な取り組みの充実」(20%)です。L' s College おおさかでは、月に2回程度、校外での体験活動を行っています。公共のルールや集団活動、友達との距離感等、多くのことを楽しみながら学べるように工夫をしています。次いで、「日常生活に役立つ力の育成」(19%)です。これも、体験的な活動とは切り離せない「学び」ですが、集団

やルールを意識して行動ができるようになるためには、実践的な体験活動が不可欠です。そのためには、校外での活動をいかに有効活用するかがポイントになります。次に、「進路の情報やサポート」(13%)という回答になっています。自立訓練の2年間は、とても短いです。そのため、保護者は次のステップを早くに検討しなければなりません。「はじめに」でもふれましたが、L' s College おおさかの設置母体である、エル・チャレンジは、障がいのある人の就労支援を約20年間にわたって取り組んできました。その実績をもとにした、大阪府内における関係機関との連携を生かして、終了後、次のステップを保護者に提案できるように取り組んでいます。

vi. L' s College おおさかで期待する行事

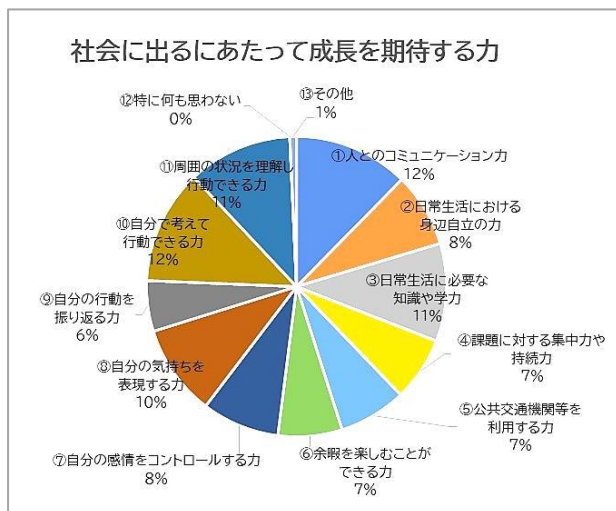


大きく 5 つに分けられますが、一番多いのが「修学旅行（宿泊訓練）」（23%）です。修学旅行は、2 年生の 11 月に実施されますが、1 年生の 7 月頃から、各クラスのホームルーム等を活用して、修学旅行への準備を行います。図書館等で、観光地案内や旅行雑誌などを借り、話し合いを続けます。その中で個々の在籍者が、修学旅行へのイメージを作り上げ、1 年生の 11 月頃までに、学年でプレゼンテーションを実施し、投票により行き先が決定します。

次いで、「校外学習」（19%）と「修了研究発表会」（19%）が同じパーセントです。「校外学習」は、工場見学から自然史博物館、美術館等の見学を、学年やクラス単位で実施

しています。「修了研究発表会」は、一年次は団体演技を中心に学習発表を行い、二年次は修了研究と位置づけ、複数のグループごとで、個の学習を見てもらえるように取り組んでいます。在籍者が 2 年間で培ってきた力を発表会を通じて、保護者に見てもらえるように取り組んでいます。次いで、「生徒会選挙」が 15%となっています。生徒会選挙は、選挙権が 18 歳となっているため、できるだけ模擬選挙になるよう工夫をしています。最後に「成人式」が 14%となっています。

vii. 社会に出るにあたって成長を期待する力



L' s College おおさかにおいて、成長を期待する力は、回答が多岐にわたりました。これらのことから、L' s College おおさかへの期待は、多様であることがわかります。

ii-ii. 修了者 保護者アンケート調査結果

平成 28 年度・29 年度の修了者の保護者に対し、L' s College おおさかへのアンケートに関するアンケート調査を行いました。

なお、調査対象や人数等は以下の通りです。

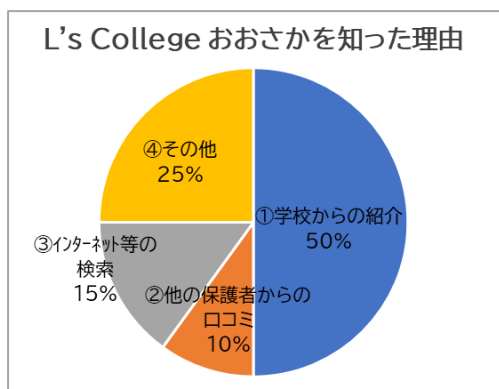
調査対象:L' s College おおさかの修了者の保護者

人 数 : 26 名

回 答 率 : 85%

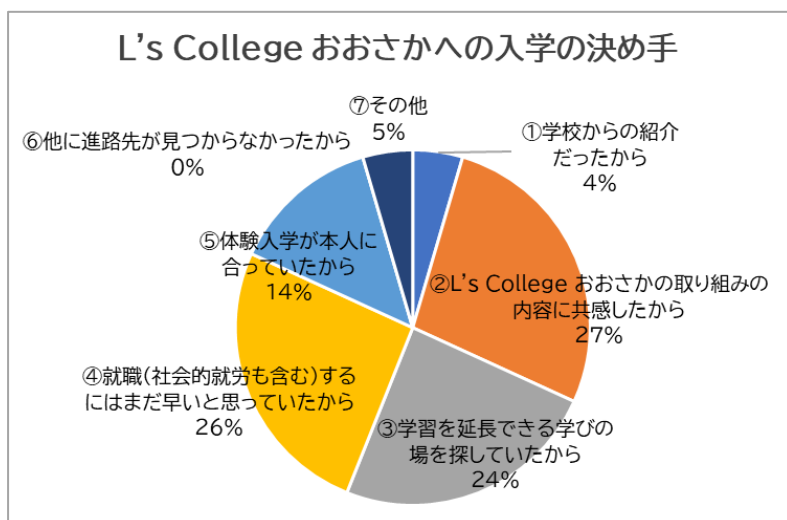
質問項目は、別添 3 のとおりです。

i. L' s College おおさかを知った理由



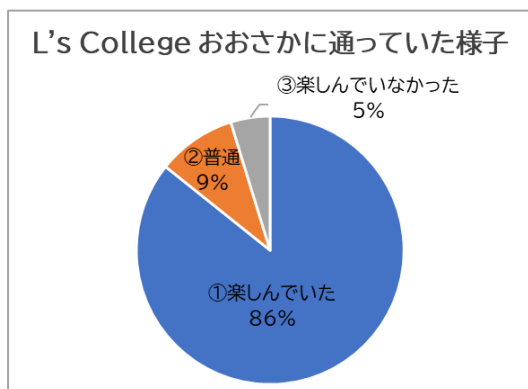
L' s College おおさかを知った理由は、在籍者の保護者と同様、「学校からの紹介」(50%) がトップでした。以下、「インターネット等の検索」(15%)、「他の保護者からの口コミ」(10%) の順になっています。

ii. L' s College おおさかへの入学の決め手



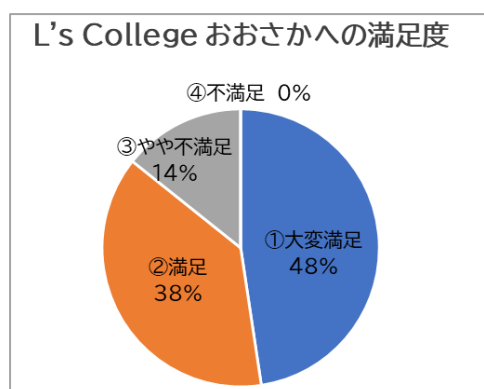
結果は大きく 4 つに別れ、最も多かった回答は、「L' s College おおさかの取り組みに共感したから」(27%) でした。次いで、「学習を延長できる学びの場を探していたから」(24%) という回答で、次の「就労(社会的就労も含む)するにはまだ早いと思っていたから」(26%) の回答と合わせると、半数の人が就労するまでにもう少し時間がほしいと、同意見を持っていることが推察できます。

iii. L' s College おおさかに通っていた様子



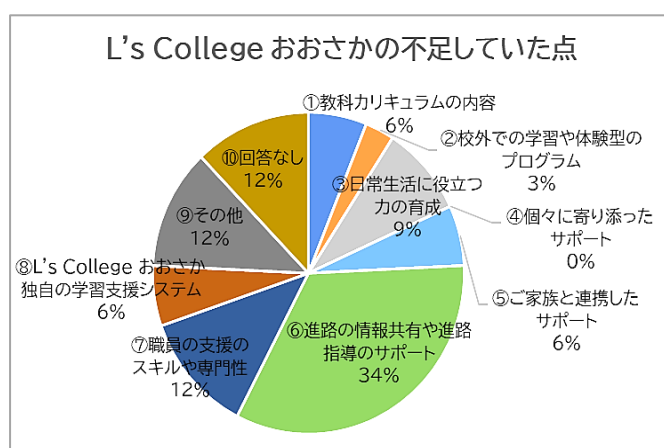
L' s College おおさかに通っていた様子については、多くの保護者から「楽しそうに通っていた」(86%) との回答を得ました。

iv. L' s College おおさかへの満足度



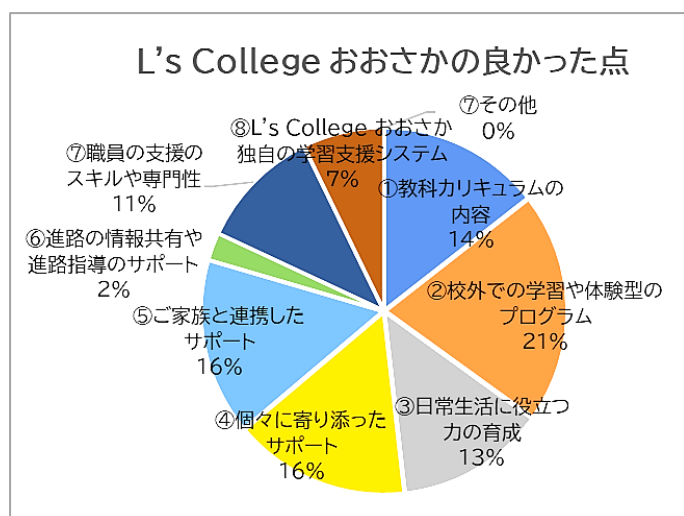
L' s College おおさかを選択されてどうでしたかという質問に対して、「大変満足」(48%)と「満足」(38%)を合わせると、86%となりました。しかし、「やや不満足」との回答が14%ありました。

v. L' s College おおさかの不足していた点



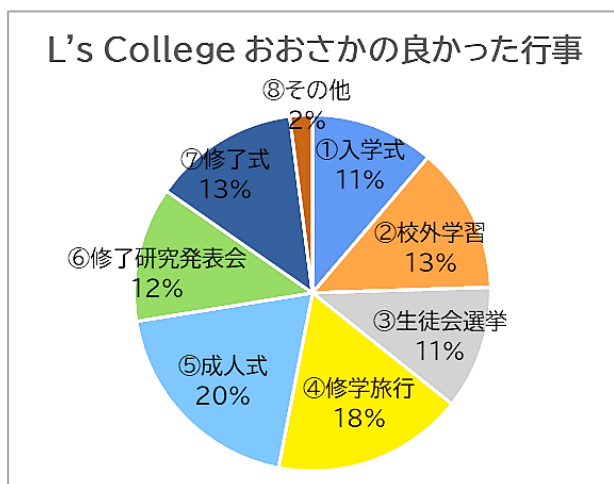
L' s College おおさかに不足していた点では、最も回答が多かったのが「進路に関する点」(34%)です。L' s College おおさかの2年生の9月に、進路相談を開始しますが、これらのアンケート結果から、進路選択への十分な説明や、連携がうまくいかなかった部分があると考えます。今後は、L' s College Plus も含めて、修了後の進路について、個々の特性に踏まえた相談体制を確立していく必要があります。

vi. L' s College おおさかの良かった点



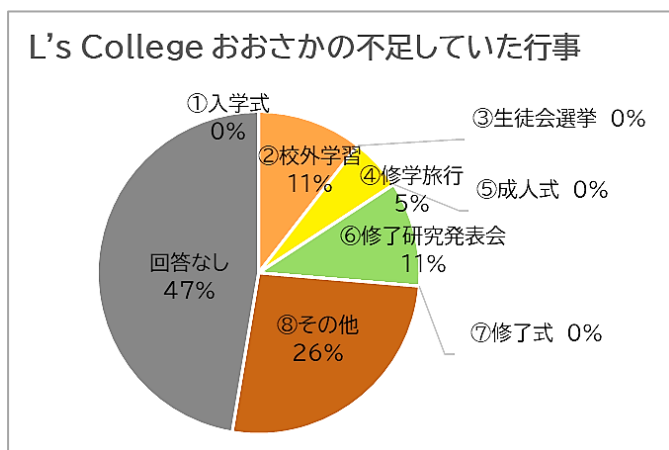
在籍者保護者アンケートの「L' s College おおさかに期待すること」と同様の回答になりました。

vii. L' s College おおさかの良かった行事



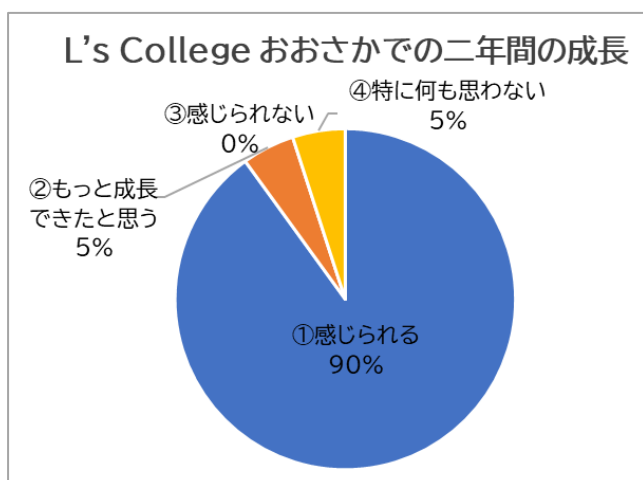
最も評価の高い行事は「成人式」(20%)で、次いで、「修学旅行(宿泊訓練)」(18%)でした。

viii. L' s College おおさかの不足していた行事



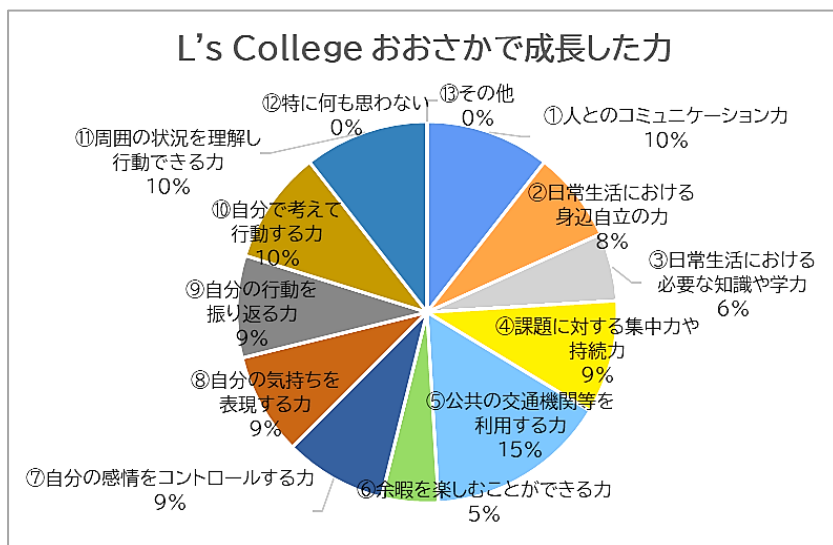
約半数の人が、「回答なし」(47%)で、不足していた行事として「校外学習」と「修了研究発表会」の回答が多くなりました。

ix. L' s College おおさかでの2年間で成長を感じられたか



L' s College おおさかとして、最も重視する事ですが、90%の保護者から成長を「感じられる」との回答があり、10%が「もっと成長できたと思う」、5%が「特になにも思わない」との回答でした。

x. L' s College おおさかで成長したと思うところは



本人の成長を感じられる部分は、多岐にわたり、多くの保護者から変化した部分があるとの評価を得ました。成長は、今の学習が結果に表れるのではなく、学び続ける中で、何か一つのきっかけを通して、ステップを上げるものだと思います。

ii-iii. 在籍者 アンケート調査結果

平成 30 年度の在籍者に対し、L' s College おおさかに関するアンケート調査を行いました。

なお、調査対象及びに方法については以下の通りです。

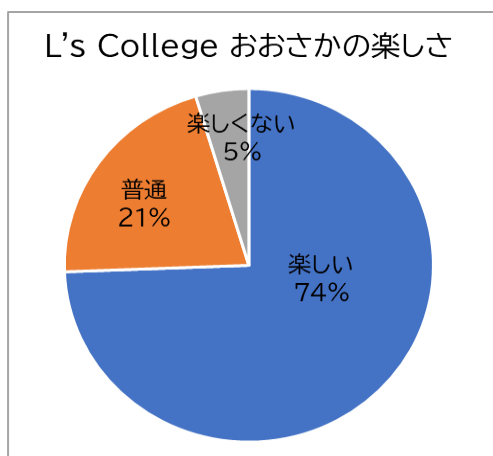
調査対象：L' s College おおさかの在籍者

人 数：43 名

回 答 率：100%

質問内容は、別添 4 のとおりです。

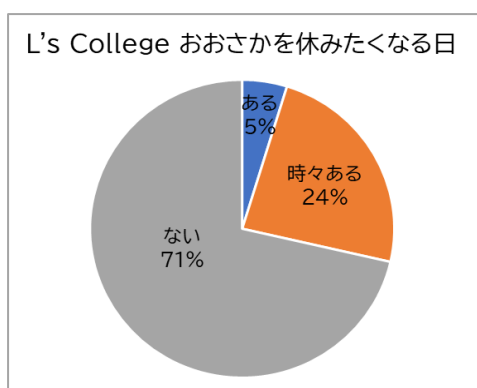
i. L' s College おおさかの楽しさ



L' s College おおさかが楽しいか楽しくないかの問いに対して、楽しくない生徒が 5%いるということは、今後注目すべき点です。

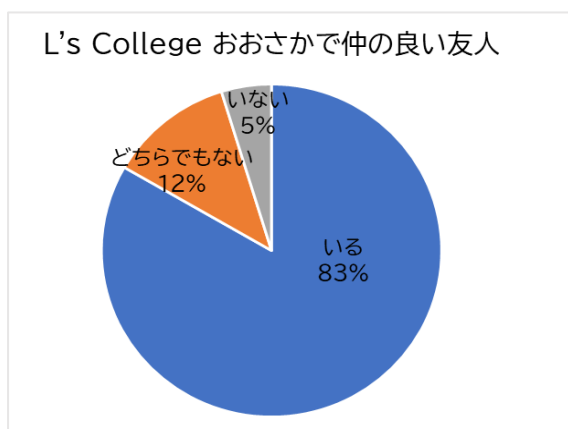
楽しいと回答する生徒がより多くなるよう、L' s College おおさかは楽しいが 100%をめざしていきます。

ii. L' s College おおさを休みたくなる日



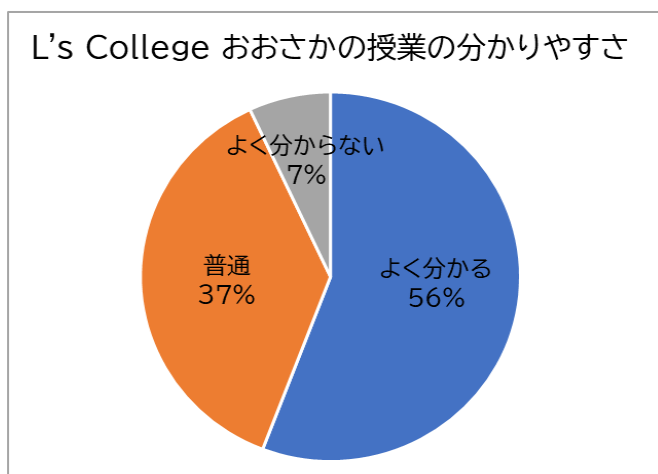
誰でも休みたい日があり、それが問題ではなく、継続して休みたい、あるいは行きたくないことが問題だと考えます。今後、休みたいという回答が増えていくことがあれば、大きな問題がありますが、今回の調査では、台風や地震の日、あるいは気持ち的に行きたくない日があるという理由であり、ごく普遍的な心境だと考えます。

iii. L' s College おおさかで仲の良い友人



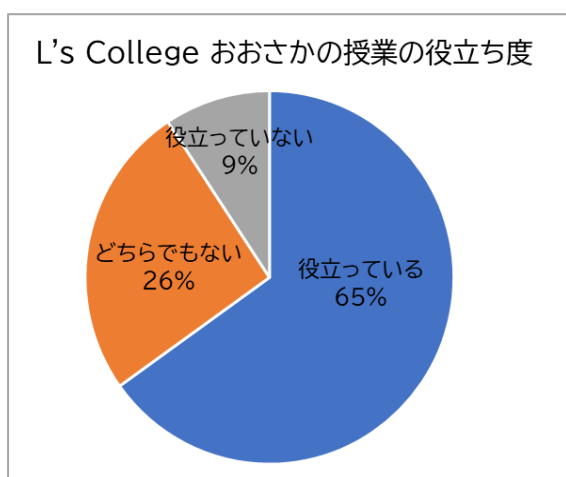
多くの生徒が仲の良い友人が「いる」（83%）と回答している反面、いないと回答した生徒も 5%おり、体験活動や昼休み、放課後での活動などを通じて、配慮していく必要があると考えます。また、グループ学習などを踏まえて、友人を作るためのサポートをしていきます。

iv. L' s College おおさかの授業の分かりやすさ



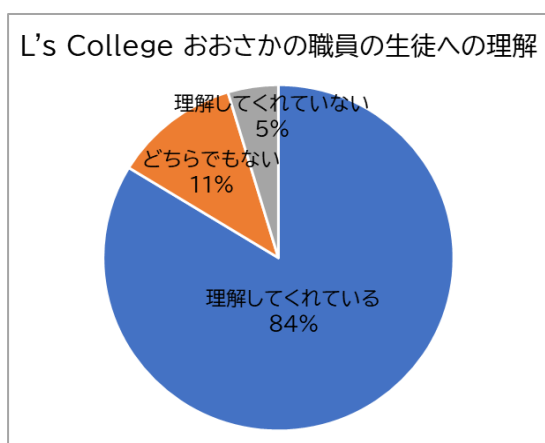
「よくわかる」が 56%で、「普通」が 37%という回答でした。授業は、分かることばかりでも、分からないことばかりでも、モチベーションが下がってしまうため、授業にはバランスが必要だと考えます。

v. L' s College おおさかの授業の役立ち度



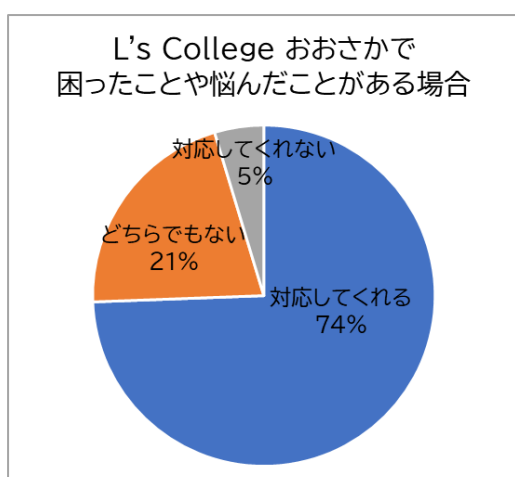
授業で学習したことが生活に役立っているかどうかを聞いており、65%の在籍者が「役立っている」と回答しました。今後も、実生活に必要な「学び」を積み上げていくことで、役立っていないという意見が少なくなるように努めたいと思います。

vi. L' s College おおさかの職員の生徒への理解



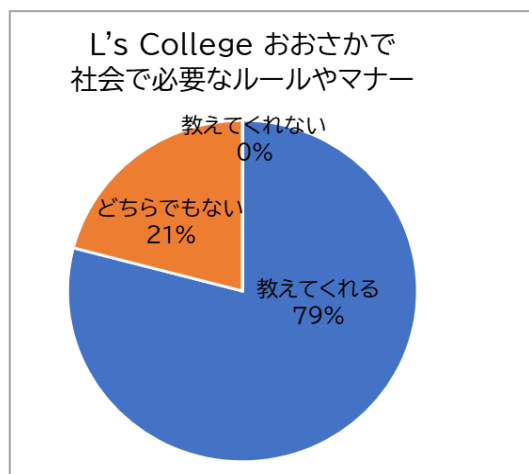
職員と在籍者との学校生活における共感の度合いについて、84%が「理解してくれている」と回答しました。これは職員が個々の在籍者にしっかりと向き合って対応しているからと考えますが、16 パーセントが「どちらでもない」「理解してくれていない」と感じています。

vii. L' s College おおさかで困ったことや悩んだことがある場合



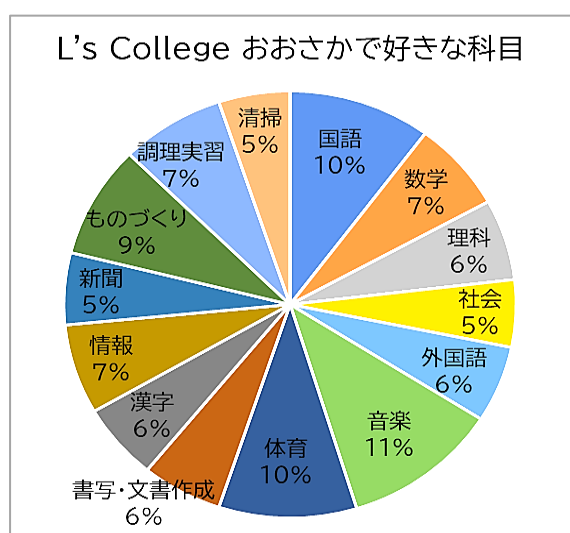
在籍者が困ったことや悩んだことに対して、学校として対応しているかという質問ですが、「対応してくれる」が74%で、「どちらでもない」が21%、「対応してくれない」が5%でした。

viii. L' s College おおさかで社会で必要なルールやマナーを教えてくれるか



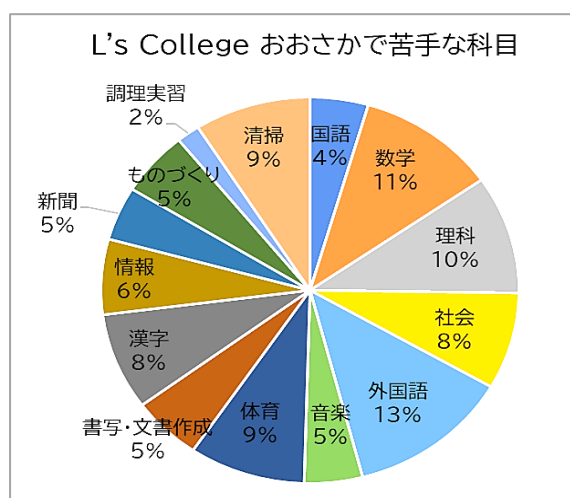
社会でのマナーやルールを教えてくれるかという質問に対して、「教えてくれる」が79%で、21%が「どちらでもない」との回答でした。

ix. L' s College おおさかでの好きな教科



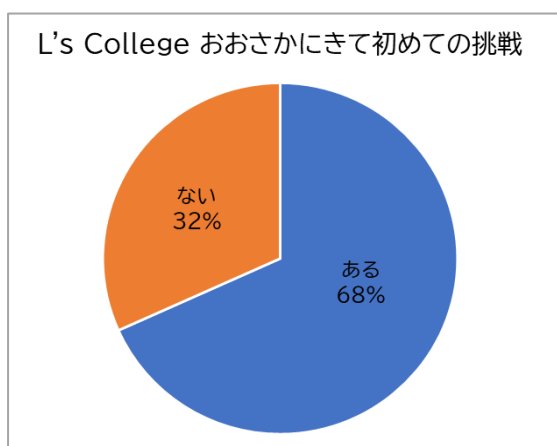
好きな教科を質問した結果は、多岐にわたった回答となりました。L' s College おおさかのプログラムは8教科であり、様々な「学び」を用意しています。

x. L' s College おおさかでの苦手な教科



好きな教科と同様に、多岐にわたる回答となりました。それだけ多様な「学び」があるということだと考えます。

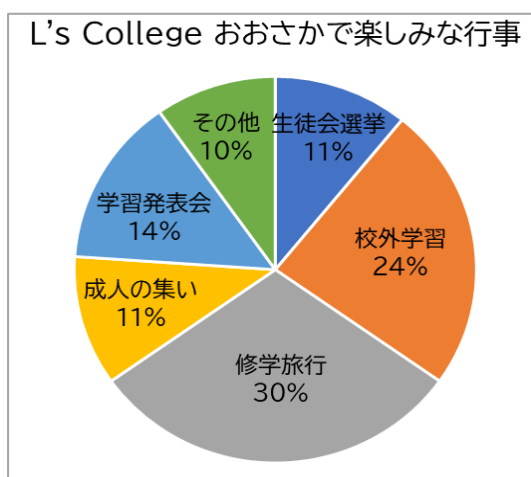
x i. L' s College おおさかにきて初めての挑戦



L' s College おおさかで初めて体験したことへの質問です。68%が「ある」、32%が「ない」と回答しました。

ワクワク・ドキドキするような新しい体験ができるよう、今後もプログラムの開発を進めていきます。

x ii. L' s College おおさかで楽しいな行事



「修学旅行（宿泊訓練）」が30%、「校外学習」が24%、「学習発表会」が14%等となりました。

V-I. L' s College おおさかの取り組み

i. L' s College おおさかの位置付け

L' s College おおさは、障害者総合支援法に基づく自立訓練(生活訓練)事業を活用した福祉事業型の学校であり、「学び」を主軸とした学校スタイルにこだわっています。

自立訓練とは、①「入所施設・病院を退所・退院した者であって、地域生活への移行を図る上で、生活能力の維持・向上などを目的とした訓練が必要な者」、あるいは②「特別支援学校を卒業した者で、継続した通院により症状が安定している者等であって、地域生活を営む上で、生活能力の維持・向上などを目的とした訓練が必要な者等。」と国によって規定されています。

L' s College おおさは、知的障がいのある人の高等学校卒業後の「学び」の場として、社会の中で、よりよく豊かに生きていくための基本的な力を育むことを大切にしています。

ii. L' s College おおさかの「学び」

L' s College おおさかは、自立訓練事業を活用して運営しており、社会自立のために、生活能力をどのように維持・向上できるかをポイントとしています。高等学校等を卒業した人を対象に、期間は概ね2年間とし、さらに、就労継続支援B型を活用したL' s College Plusの2年間と併せて、合計4年間のプログラムを提供しています。在籍者の多くは、コミュニケーションや協調性、集中力やモチベーションの維持、対人関係等に幼さを残していることから、社会自立に向けて一定の「学び」が必要だと考えます。

社会自立のための力は、様々な体験を通して、必要に応じてその経験を活かすことのできる必要があります。L' s College おおさかでは、そのことを踏まえ、4年間で学んでもらいたい目標を設定しています。

iii. L' s College おおさかの目的

L' s College おおさかの「学び」の目的は、大きく3つあります。

- ① 「暮らす力と働く力を育む」
- ② 「生きる力を育む」
- ③ 「自分で考え自分で行動する力を育む」です。

① 「暮らす力」は、居住の場所や暮らし方といったことではなく、社会の中で、よりよく豊かな生活をおくることのできる基本的な力のことです。そのためには、社会の中で対等な対人関係が築けること、心が健康であること、自分の楽しみを知るといったことが必要になってきます。また、「働く力」は、働き続ける力のことであり、モチベーションをいかに維持できるか、意欲をもって仕事に取り組めるか、仕事の中に楽しみを見出せるかといった力になると考えます。

② 「生きる力を育む」は、知識を知恵に変えていく力だと考えます。知っているだけではなく、知っていることを使えること、そして生活を豊かに、楽しく創造していく力です。

③ 「自分で考え自分で行動する力」は、L' s College おおさかが、最も大切にしたい力です。知的障がいのある人には、自分自身で何かを選択することのできる機会をもっと提供していく必要があると考えています。誰しも「こうしなさい」や「それはダメ」といわれる経験が多くなると、自分の考えや行動に自信が持てなくなってしまうです。それは、内在している本来の力を発揮できない、発揮させないことに繋がっていると考えます。

この3つの力を育むために、L' s College おおさかでは、8つの教科と体験的な「学び」を多く取り入れたプログラムを導入しています。

なお、本調査研究報告書において、L' s College おおさかの「学び」のプログラムに「教科」という文言をあえて使用していますが、当然ながら、これは学習指導要領に基づく「教科」とは異なるものです。また、L' s College おおさかは、「障害者総合支援法」による福祉事業を活用した「学びの場」であり、国の学習指導要領の定めを受けないものであります。L' s College おおさかでは、独自の「学び」

の取みを「教科」と表現することで、職員も在籍者も、共に、「学び」に対する主体性や積極性を常に再確認しています。

iv. L' s College おおさかのプログラム

L' s College おおさかのプログラムは、8 教科と体験的な「学び」に大別できます。教科とは、「学び」のプログラムのことであり、体験的な「学び」とは、体験をベースとした総合的な「学び」のことです。障がいのある人に対しては、少ないアプローチよりも、学校教育のような多面的なアプローチの中から、興味や関心の幅を広げていくことが大切だと考えています。

以下に、L' s College おおさかのプログラムを紹介します。

(i) コミュニケーション国語

国語の要素は「読む」「書く」「聞く」が3要素とされていますが、L' s College おおさかでは「発表」という要素を大切にしています。コミュニケーションの一步は、相手に何かを伝えたいという意欲だと思います。そのために、国語の前にコミュニケーションをつけて、相手に何かを伝える「発表」を重視しています。

(ii) 生活数学

数学の前に「生活」とついている理由は、生活の中で役に立つ、もしくは生活の中で活用できる数学的な力を伸ばしてもらいたいと考えているからです。計算する力はあるとしても、お金の計算や順序立てて考えることが苦手であることを軽減するために、訓練的な工夫をしています。例えば、一桁同士の簡単な100マス計算のタイムを計測し、数字に対する反応の速さを高め、瞬発力を鍛えます。また、記憶の訓練も行います。練習することで、記憶できる量は増えていきます。覚えることに意欲を持って取り組めるように、ゲーム的要素等を入れて、意欲的に取り組めるよう工夫しています。

自分の体を使って長さを測ったり、体重と比較することで、ものの重さを感じたりと、体感的に学べるような「学び」を取り入れています。

(iii) 生活社会

生活社会では、身近なことから広がっていきます。L' s College おおさかの在籍者は、大阪府の様々な地域から通学しているため、自分の住んでいる地域を調べて知ることから始めます。それから、大阪府全体、近畿、西日本、関東、東北と地域を広げていきます。歴史では、NHKの大河ドラマなど身近な歴史から興味のあることを探り、史跡や博物館、歴史館などに行くなど、体験的な「学び」の機会を設けています。

(iv) 生活理科

生活理科も生活社会と同様に、生活に必要な理科的な知識を取り上げます。気象ニュースや作物作りなど、身近な題材や実験などで興味を引き付けられるよう、工夫しています。

(v) 漢字学習

国語の一要素である漢字を取り出して学ぶのは、漢検を受けるためです。資格に挑戦して突破する「学び」を経験するため、個々の力や受験する級に合わせて学んでいます。

(vi) 新聞学習

新聞やニュースに興味関心が低い在籍者が多いため、新聞学習をプログラムに取り入れています。一般紙では、ボリュームが多く焦点が絞れないため、こども新聞を活用しています。

(vii) 書写・文書作成

書写では、マス目にきれいに文字を書くことを意識し、文字のバランスや大きさなどをある程度コントロールできるよう、学習を行っています。文書作成では、基本的な文章の書き方について学び、様々な文書を模写することで、文章の書き方や文章の内容について学びます。

(viii) 情 報

情報学習では、パソコンの基本的な操作や知識を中心に学びます。インターネットを使い、興味のあることを検索できるよう学んだり、ワードやエクセル、時にはパワーポイントなどを活用しながら、プレゼンテーションの資料の作成を行ったりしています。

(IX) 外国語

外国語は、中国語を学んでいます。中国語での簡単なあいさつや会話ができるよう、簡単なフレーズを話すことに重点を置き、取り組んでいます。

(x) ものづくり

ものづくりは、美術工作とレザークラフトに分かれます。美術工作は、絵を描くことや作品作りから、色彩感覚を養います。紙や木、粘土など素材を変えることで、手指の巧緻性を高めます。レザークラフトは、外部から専門の講師を招聘しています。自分で作ったものを使ったり、家族へのプレゼントとなるよう、作品を作っています。これまでに、ポシェット、ティッシュカバー、壁掛け時計作りに取り組みました。

(x i) 家庭科

家庭科の授業では、調理実習を中心に学んでいます。

(x ii) 音 楽

音楽は、合唱やリズム楽器で合奏をしたりと、音楽に親しむことを大切にしています。また、課題曲を設定し、カラオケスタジオに行き、歌うことを楽しむといった取り組みも行っています。

(x iii) 体 育

体育は、近くのグラウンドで、週に2コマ続きで学んでいます。体を動かすことやゲームスポーツを楽しむことで、体を動かしながら集団を意識できるよう取り組んでいます。